



## 印西クリーンセンター特集



印西地区環境整備事業組合では、印西地区（印西市・白井市・栄町）のごみを安全に処理し、ごみの持つエネルギーを有効に活用する施設「印西クリーンセンター」を管理・運営しています。印西クリーンセンターの老朽化に伴い、現在、建替えの準備作業として「次期中間処理施設整備事業」を推進しています。

### 講演会、説明会の開催について

1. 日時 平成24年1月29日(日) 午後1時から(3時間30分程度)  
会場への入場は開演20分前とさせていただきます。
2. 場所 印西市 文化ホール  
印西市大森2535
3. 日程 第一部 講演会(午後1時から)  
「ごみ処理施設の安全と安心について」  
第二部 説明会(午後3時から)  
「次期中間処理施設整備事業について」
4. 問合せ先 印西地区環境整備事業組合  
印西クリーンセンター 技術班  
☎0476(46)2733

※駐車場台数に限りがございますので、ご来場の際は公共交通機関等のご利用をお願いいたします。



### 次期中間処理施設整備事業

#### 概要

印西クリーンセンターでは、印西地区から発生する一般廃棄物（家庭系及び事業系のごみ）を焼却処理施設及び粗大ごみ処理施設で毎日、安全に処理をしています。

焼却処理施設は、燃やすごみを対象とし、昭和61年に日量200トン（100トン／日×2基）の焼却能力と増設分の建屋を確保して稼働を開始しました。その後、平成11年に人口の増加に伴うごみ量の増加から、日量100トン（100トン／日×1基）の増設を行い合計日量300トンの施設となりました。

また、粗大ごみ処理施設は、燃やさないごみ、粗大ごみを対象とし、昭和61年に日量50トン処理できる施設として稼働を開始しました。

稼働開始から現在までの25年間の稼働状況は、周辺32自治会・町内会と「公害防止協定」を締結し、年4回開催される「環境委員会」において、協定事項に基づく報告・協議を行っており、協定値の遵守及び安全操業の継続を確認いただいています。

印西クリーンセンター



#### 建替えの必要性

印西クリーンセンターは、みなさんから出されたごみを常に安全に処理するために毎年、各設備の定期点検、維持補修を確実にを行い、施設を常に良好な状態に保ち続けながら、故障に対する予防保全措置に心がけ延命化を図ってきたところです。

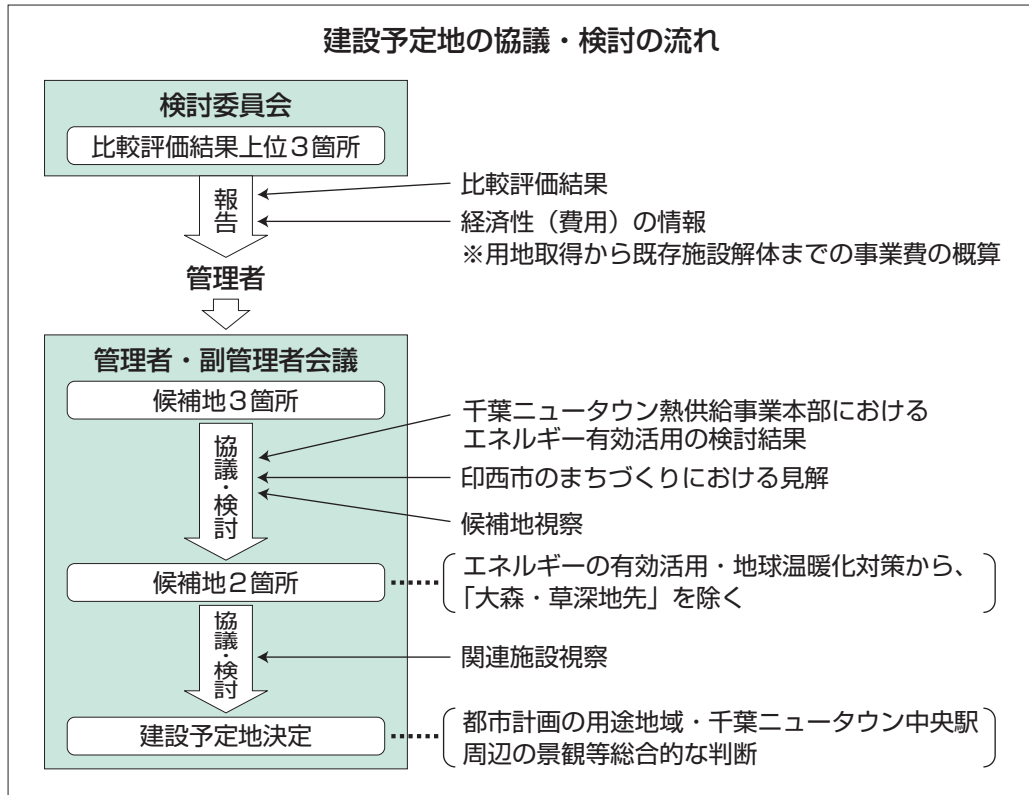
しかし、焼却処理施設では、多種多様なごみを安定的に処理するための最も重要なコンピュータをはじめとした電子制御機器類の保証限界、焼却炉、ボイラをはじめとした主要機器の老朽化、建築物の老朽化調査における建替え目安が築35年目（平成32年）となっていることから、次期中間処

理施設稼働開始までに係る期間を考慮して、施設の建替えを検討しました。

次期中間処理施設は、循環型社会の構築、最新技術の導入、環境に与える影響を最小限に抑え、廃棄物エネルギーの最大限活用を目指し、焼却処理施設を「熱回収施設」、粗大ごみ処理施設を「資源化施設」として、平成30年度の稼働を目標に更新することとしました。

また、施設の規模については、平成25年度に改訂を予定している「印西地区ごみ処理基本計画」において、決定していくこととしています。

## 建設予定地の決定経緯



建設予定地の検討は、平成21年6月に発足した「印西地区次期中間処理施設整備検討委員会」（以下、検討委員会）において、組合構成市町村から抽出頂いた比較検討地5箇所と現在地を含めた計6箇所と比較評価を行いました。

検討委員会（委員構成：学識経験者4名、住民6名、市町村衛生担当課長5名、組合2名）では、「環境影響評価面」の地球温暖化対策や、自然環境の項目を重要視した25項目による評価をしました。

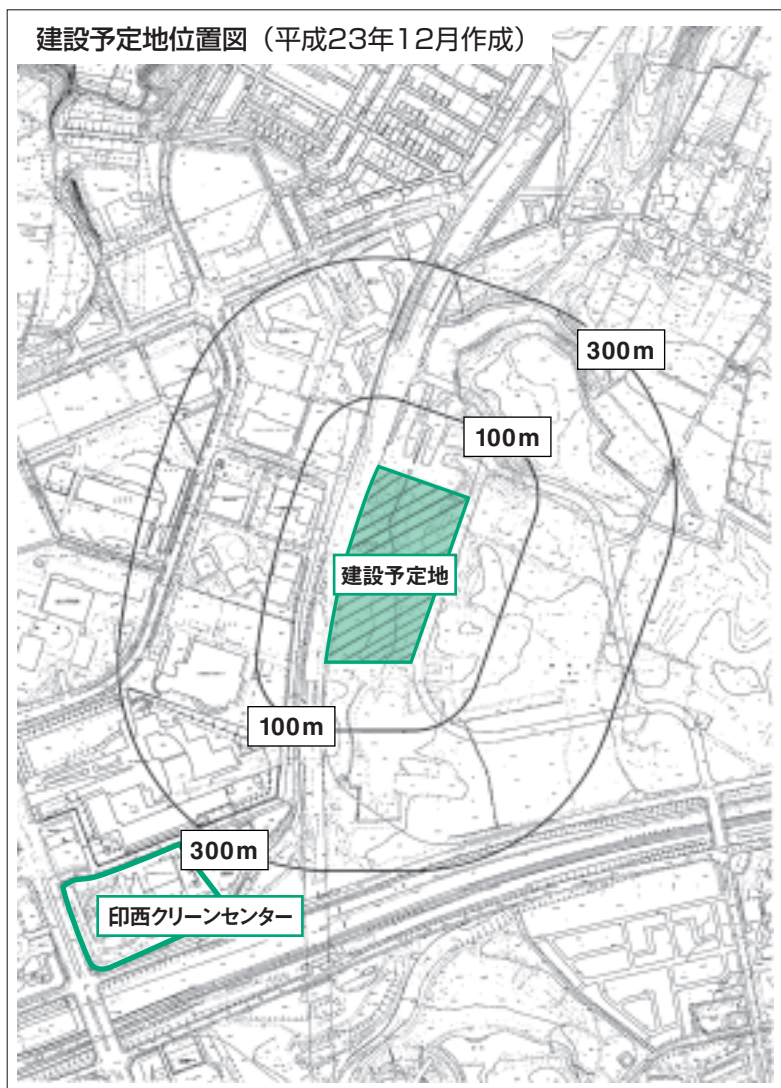
その評価結果として、上位3箇所（1位「泉・多々羅田地先」、2位「現在地」、3位「大森・草深地先」）を平成22年4月に管理者へ報告し、管理者・副管理者会議において、この3箇所を候補地として検討を重ね、ごみのエネルギーの有効活用と地球温暖化対策の効果から、「大森・草深地先」を候補地から除き、更に都市計画の用途地域、将来の千葉ニュータウン中央駅周辺の景観、まちづくりの観点など、これまでの検討結果を総合的に判断した結果、平成23年6月に「泉・多々羅田地先」を次期中間処理施設の建設予定地と決定いたしました。

## 概算事業費

新たに取得する用地費、施設の工事費等の概算費用は、平成23年3月時点で下表のとおりです。

		概算事業費	算出基礎
用地費		4,000百万円	取得見込み面積：40,000㎡、取得見込み単価：100,000円/㎡
工事費等		15,772百万円 （建設費 14,157百万円 事務費等 1,615百万円）	建設費：熱回収施設 約240t/日 ：リサイクルセンター（管理棟含む） 約25t/日 事務費等：調査設計（環境影響評価、基本設計業務、工事施工監理業務等） ：現施設の解体
合計		19,772百万円	
財源内訳	国庫支出金	3,790百万円	循環型社会形成推進交付金として、事業対象額の1/3が国から交付予定
	地方債	13,252百万円	償還期間10年から15年の地方債の充当
	一般財源	2,730百万円	負担対象各年度の市町の負担金合計

※今後、詳細な調査設計を行い、事業費を決定していきます。



## 建設予定地の面積

建設地の面積については、検討委員会における報告内容と印西クリーンセンターのこれまでの稼働実績等を踏まえ、建替えに必要な面積を3.75haとして検討しています。

なお、現在地については、次期中間処理施設の稼働開始後、既存施設を解体し用地を売却する予定としています。

建設予定地の概ねの位置は左図のとおりです。

## 環境面

次期中間処理施設では、よりよい地域環境を目指し、最新の設備で環境への影響の負荷を低減し、良好な環境を保全していくために、千葉県条例に基づく環境影響評価を実施します。住民や行政機関などの意見も取り入れつつ、環境保全への適正な配慮を行います。

また、法律に示されている規制値よりさらに厳しい数値「自主規制値」を施設周辺住民の皆様と対話の中で決定していきます。

熱回収施設に係る排ガス規制値及び自主規制値

		塩化水素 HCL (ppm)	窒素酸化物 NOx (ppm)	硫黄酸化物 SOx (ppm)	ばいじん (g/㎡N)	ダイオキシン類 DXNs (ng-TEQ/㎡N)
現施設	法規制値	430	250	1,900	0.08	1
	自主協定値	80	120	50	0.03	1・2号炉 1 3号炉 0.5
新施設	法規制値	430	250	K=9.0※1	0.04	1 or 0.1 (炉数による※2)
	自主規制値(案)	60	100	40	0.01	0.1

※1 硫黄酸化物の法規制値は、K値という地域ごとに定められた値9.0と施設の煙突高さなどを基に算出されます。  
 ※2 焼却能力により規制値が異なり、1炉当たりの処理能力が4t/h以上は0.1に、2t/h以上から4t/h未満は1になります。